

<b>Title</b>	バスケットボール競技におけるスクリーンプレーの研究
<b>Author</b>	荻田, 亮 / 渡辺, 一志 / 松永, 智 / 嶋田, 出雲
<b>Citation</b>	大阪市立大学保健体育学研究紀要. 32 巻, p.11-18.
<b>Issue Date</b>	1996
<b>ISSN</b>	0474-795X
<b>Type</b>	Departmental Bulletin Paper
<b>Textversion</b>	Publisher
<b>Publisher</b>	大阪市立大学保健体育研究室
<b>Description</b>	

Placed on: 大阪市立大学学術機関リポジトリ

Placed on: Osaka City University Repository

# バスケットボール競技における スクリーンプレーの研究

荻田 亮<sup>1)</sup>, 渡辺 一志<sup>1)</sup>, 松永 智<sup>2)</sup>, 嶋田 出雲<sup>1)</sup>

The study of screen-play in basketball

Akira OGITA<sup>1)</sup>, Hitoshi WATANABE<sup>1)</sup>,  
Satoshi MATSUNAGA<sup>2)</sup>, Izumo SHIMADA<sup>1)</sup>

(平成8年12月21日受付)

## 緒 言

バスケットボール競技とは、集団がチームを作り攻撃と防御に分かれ、1個のボールを媒介にしてコートを往復しながら個人的技能や集団的技能によって得点したり、得点を阻止したりして、勝敗を争うゲームである<sup>5)</sup>。また、その競技において、集団性、対人性、ショットが本質的な特性としてあげられ、その中でもショットというものは最終的な目標とされている<sup>3)</sup>。

従来、バスケットボール競技の攻防において、1対1（ボールを保持している攻撃側プレイヤーとその防御側プレイヤーや、ボールを保持しない攻撃側プレイヤーとその防御側プレイヤー）の攻防が原点といわれてきたが<sup>10)</sup>、バスケットボール競技の本質が集団性にあるということから、2対2や3対3などの集団を単位とした攻防を捉える必要がある。また、バスケットボール競技において要求される攻撃技術においても、パスモーションや、ドリブルモーション、ショットモーション

など、1人の単位で行う個人の基本技術を向上させるためのものだけではなく、集団攻撃戦術に結びつく「動きの技術」が重要であるとされている<sup>13)</sup>。さらに、バスケットボール競技は攻撃が50%、防御が50%のフィフティ・フィフティのゲームであるため、得点と失点やプレーの確率（成功率）が勝敗を左右するゲームである<sup>10)</sup>。さらに、空間の支配や数的優位が重要な概念とされる集団スポーツであることから、バスケットボール競技の攻撃においては集団における戦術行動により、空間を支配し、あるいは数的優位な状況を作り出し、容易に確率の高いショットを行うということが勝敗に大きく関与している<sup>12)</sup>。

ショットを容易に行うための集団攻撃戦術として今日では多種多様な組織的で計画的な集団攻撃戦術が考案されている。これは、それぞれのチームにおける身体的特性や個人的技術などが考慮されているものであり、数多くのチームにおいて、組織的な戦術として実践されている。

---

スポーツ実践科学<sup>1)</sup>, 健康運動科学<sup>2)</sup>

これらの集団攻撃戦術の多くには様々なスクリーンプレーが随所に含まれている。スクリーンプレーとは、攻撃側プレーヤーの2人ないし3人による合法的な協力（技術）によって、防御側プレーヤーの1人の進路を遮断するプレーである<sup>4)</sup>。その目的は攻撃側プレーヤーと防御側プレーヤーの対峙を打破しながら攻撃のための空間支配や、数的優位すなわちアウトナンバーを作り出し、ドライブ・インやカット・イン、そして最終的な目標であるショットを容易にさせるためのものである。スクリーンプレーは、ひとつの地域にオフenseとディフェンスの4人以上が密集するため高度な技術であるとされているが<sup>5)</sup>、様々なチームの集団攻撃戦術において、容易にショットを行うという目標のためや効果的なアウトナンバーを作り出すという目的のため、組織的、計画的にスクリーンプレーが多用されていることが現状である。すなわち、スクリーンプレーは、オフenseとディフェンスの対峙を打破し、攻撃のための空間を支配することができるプレーであり、数多くのチームの攻撃で実践されている集団攻撃戦術である。

バスケットボール競技の攻撃における集団攻撃戦術において、スクリーンプレーは重要な要素であり、そのスクリーンプレーを分析することはバスケットボール競技における集団攻撃戦術の重要な研究課題のひとつである。

また、先述のようにバスケットボール競技は空間支配のゲームと言われており、空間や地域を支配することが重要とされていることから、いかなる集団攻撃戦術を考案するうえにおいても、空間支配の概念は欠かせないものである。そのため、リング下近くの地域やリング下から離れた地域など、コート上の様々な地域によって、使用される技術や戦術も異ってくる。つまり地域特性の概念をふまえたうえでコート上の種々の地域を分割し、それぞれの地域で行われる集団戦術行動を分

析することは有効的な攻撃を遂行する上において重要であると考えられる。

本研究では、バスケットボール競技中にフロントコートで行われるスクリーンプレーに着目し、種々なスクリーンプレーを分類し、その使用地域を分析することにより組織的な集団攻撃戦術の指導における一指針を得ようとするものである。

## 方 法

調査の対象として、大学生男子全国大会より、上位チームの対戦による5試合（10チーム）を抽出した。抽出した公式競技をビデオカメラで競技開始より終了まで収録し、調査を行った。収録した競技中にフロントコートで行われたスクリーンプレーを対象とし、その分類と使用地域について調査・分析を行った。

スクリーンプレーの分類については、バスケットボール競技のスクリーンプレーに関する先行研究<sup>2) 6) 10)</sup>を参考に、以下の8種類に分類した（図1-a～h）。

### a. イン・サイド・スクリーン系

ボールを保持している攻撃側プレーヤーに対峙する防御側プレーヤーの予定進路を遮断する動き。

### b. アウト・サイド・スクリーン系

ボールを保持している攻撃側プレーヤーの外側でパスをレシーブすることにより、ボールを保持している攻撃側プレーヤーがスクリーナー（防御側プレーヤーの予定進路を遮断するプレーヤー）となる動き。

### c. ダウン・スクリーン系

コートを縦にリング下方向に動く攻撃側プレーヤーがスクリーナーとなる動き。

### d. アウェイ・スクリーン系

ボールから遠ざかるようにして、防御側プレーヤーの予定進路を遮断する動き。

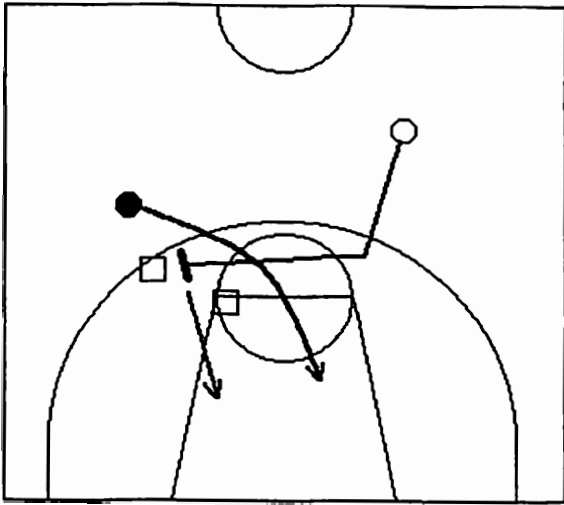


図1-a イン・サイド・スクリーン

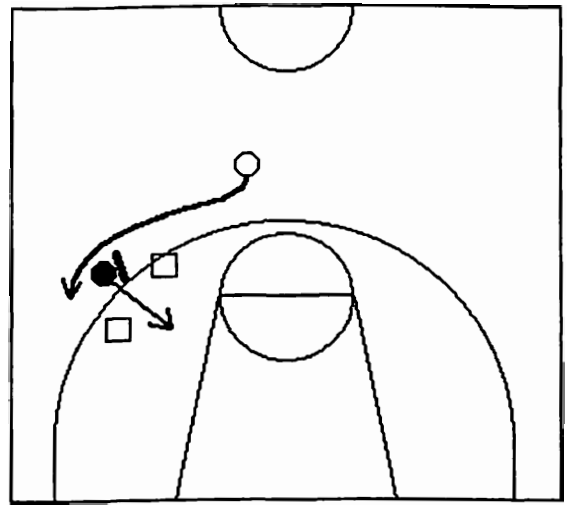


図1-b アウト・サイド・スクリーン

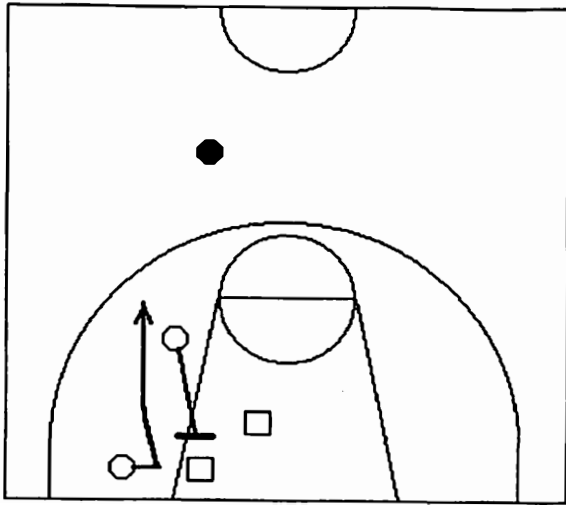


図1-c ダウン・スクリーン

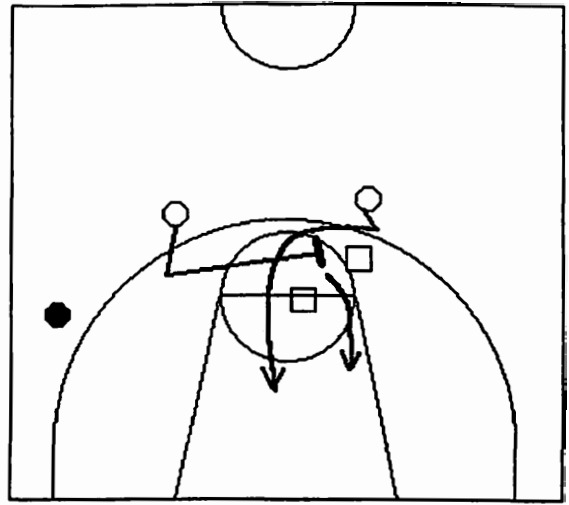


図1-d アウェイ・スクリーン

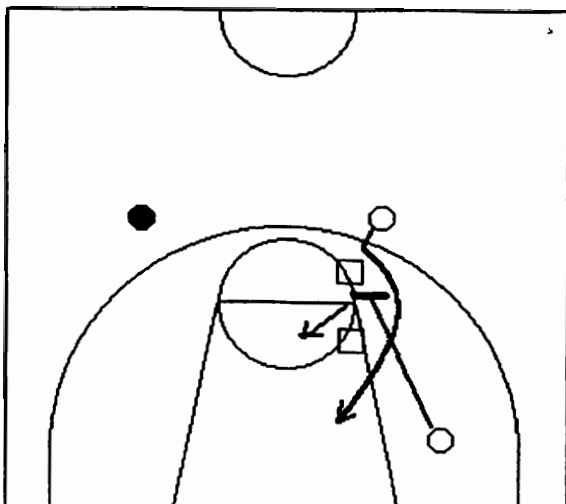


図1-e バック・スクリーン

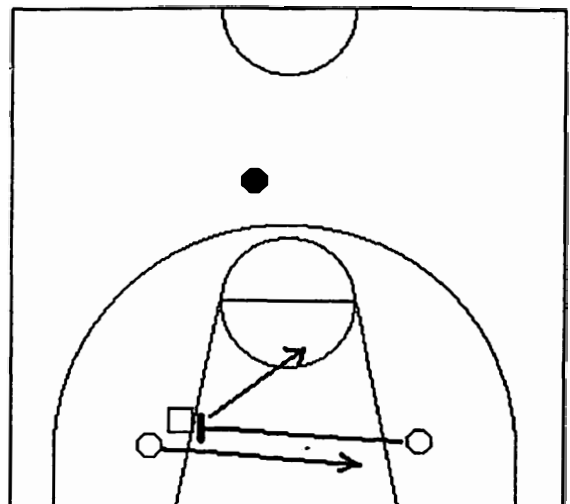


図1-f クロス・スクリーン

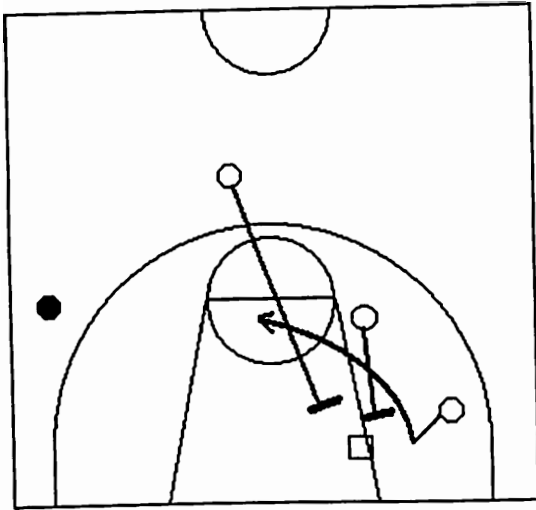


図1-g ダブル・スクリーン

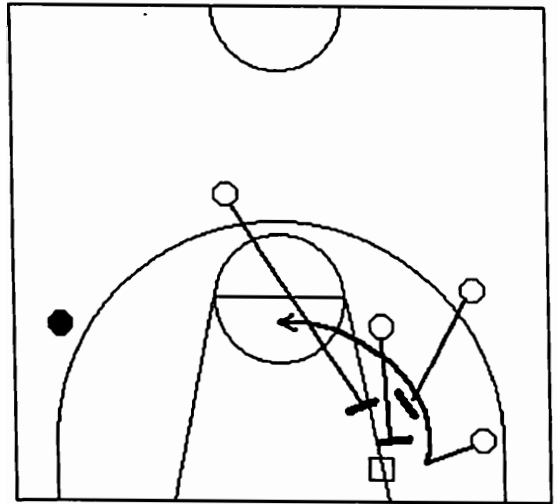


図1-h トリプル・スクリーン

(注釈\*)

- 攻撃側プレーヤー
- ボールを保持している攻撃側プレーヤー
- 防御側プレーヤー
- プレーヤーの動き
- 防御側プレーヤーの予定進路を遮断する動き

- e. バック・スクリーン系  
対峙している防御プレーヤーの後方からスクリーンプレーを行う動き。
- f. クロス・スクリーン系  
コートを横に移動し防御側プレーヤーの予定進路を遮断する動き。
- g. ダブル・スクリーン系  
2人の攻撃側プレーヤーが二重にスクリーナーとなる動き。
- h. トリプル・スクリーン系  
3人の攻撃側プレーヤーが三重にスクリーナーとなる動き。

資料の解析には母比率の差の検定を行い、有意水準を5%に設定した。

フロントコートの地域分割については、バスケットボールの指導法に関する先行研究<sup>12) 16) 17)</sup>を参考に9地域に分割した(図2)。スクリーンプレーを行った地域は、スクリーナーがスクリーンをセットした地域とした。

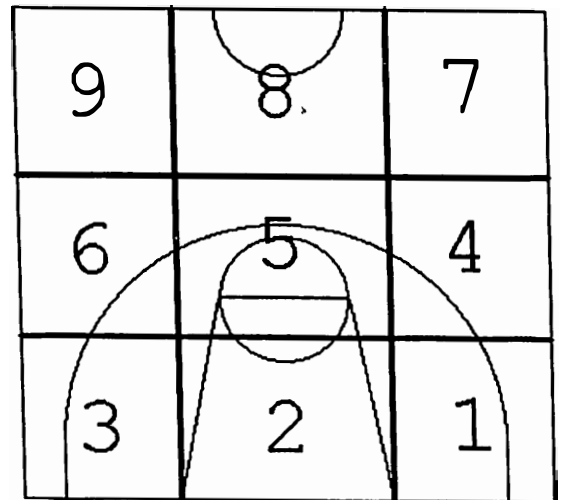


図2 フロントコートの地域分割

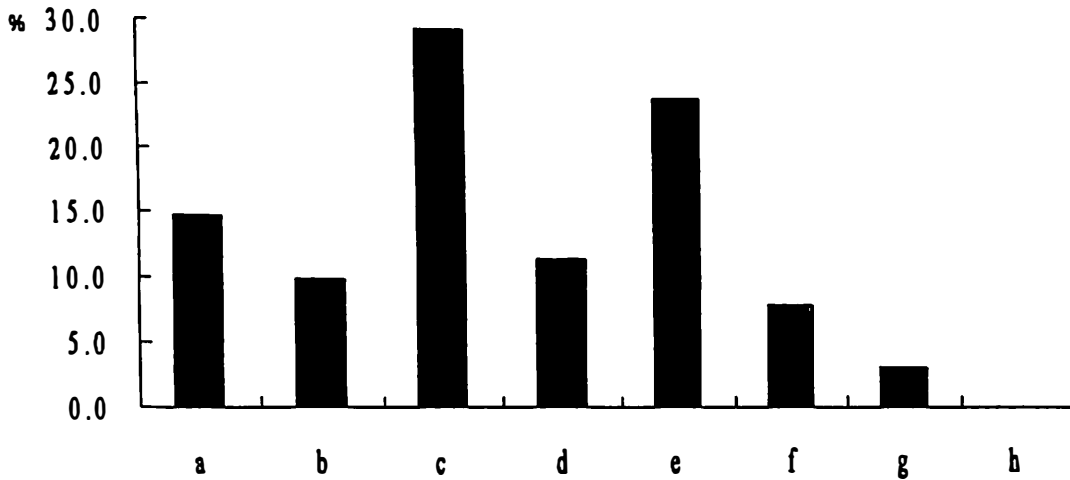


図3 使用されるスクリーンプレーの種類別割合

- |   |               |   |            |
|---|---------------|---|------------|
| a | イン・サイド・スクリーン  | e | バック・スクリーン  |
| b | アウト・サイド・スクリーン | f | クロス・スクリーン  |
| c | ダウン・スクリーン     | g | ダブル・スクリーン  |
| d | アウェイ・スクリーン    | h | トリプル・スクリーン |

### 結果および考察

#### 1) スクリーンプレーの種類について

競技中にフロントコートで使用されたスクリーンプレーの種類についての割合は、ダウン・スクリーン (29.3%)、バック・スクリーン (23.8%)、イン・サイド・スクリーン (14.8%)、アウェイ・スクリーン (11.4%)、アウト・サイド・スクリーン (9.9%)、クロス・スクリーン (7.8%)、ダブル・スクリーン (3.0%) の順で使用されており、トリプル・スクリーンは使用されていなかった (図3)。

ダウン・スクリーンの割合は、バック・スクリーンの割合とは有意な差が認められなかったものの、他の全てのスクリーンプレーの割合と比較すると有意に高い割合であった。バック・スクリーンの割合に関してもダウン・スクリーン、イン・サイド・スクリーンとは有意な差が認められなかったが、他のスクリーンプレーと比較すると有意な差が認められた。アウェイ・スクリーン、イン・サイド・スクリーン、クロス・スクリーンはそれぞ

表1 使用されるスクリーンプレーの種類別割合の差の検定

	a	b	c	d	e	f	g	h
a	-	NS	*	NS	NS	NS	*	*
b		-	*	NS	*	NS	NS	*
c			-	*	NS	*	*	*
d				-	*	NS	NS	*
e					-	*	*	*
f						-	NS	*
g							-	*
h								-

NS 有意差無し \* P<0.05

れについて有意な差が認められなかった (表1)。

これらのことより、スクリーンプレーを使っての攻撃行動としては、ダウン・スクリーン、バック・スクリーンが多く行われており一般的な集団攻撃戦術として使用されていることが示唆された。

ダウンスクリーンは、ボールを保持しない攻撃側プレイヤーがコートを縦にリング方向へ動いて防御側プレイヤーの予定進路を遮断し、スクリーンを利用して動こうとする攻撃側プレイヤー (スクリーン・ユーザー) はリングから離れるように

威の地域であり、容易な得点に直接結びつく機会が多くあるからであると推察される。以上の結果、集団攻撃戦術の一つとしてのスクリーンプレー活用の地域としては、リング下近くの地域（ポジション2）、フロントコート中心の地域（ポジション5）が重要な地域であることを示唆しているだろう。

## 文 献

- 1) A.L.Walker, Jach Donohue 「Winning Basketball」 Human Kinetics Publishers, Inc.,173-195, 1988.
- 2) 原田茂 「HARADA'S BASKETBALL」 1, 日本文化出版,157-177,1986.
- 3) 稲垣安二 「球技の戦術体系序説」 1, 梓出版社,49-54,1989.
- 4) 稲垣安二,日高明 「バスケットボール」 2,大修館書店,115-143,1975.
- 5) 稲垣安二,石川武,清水義明,西尾末広,荒木郁夫,古沢栄一,近藤光夫,本間正行 「バスケットボールにおける3系統の順次性と指導内容に関する研究」 日本体育大学紀要,12:159-168,1983.
- 6) 稲垣安二,清水義明,西尾末広,古沢栄一,石川武 「バスケットボールの攻撃の特殊戦術に関する研究—マン・アヘッド・オブ・ザ・ボール系統について—」 日本体育大学紀要,11,97-104,1982.
- 7) 稲垣安二,八板昭仁,石川武,清水義明,西尾末広,畠山栄一 「バスケットボールの防御の特殊戦術に関する研究—防御の方法の体系化—」 日本体育大学紀要,17-1,23-30,1987.
- 8) 倉石平 「オフensiveバスケットボール」 1, ベースボールマガジン社,77-96,1995.
- 9) 松永智,荻田亮,羽間鋭雄,宮側敏明,嶋田出雲 「ハンドボール競技における1人退場時の6人防御に対する攻撃方法に関する研究」 大阪市立大学保健体育学研究紀要,31,21-30,1995.
- 10) Morgan Wooten 「Coaching basketball successfully」 Human Kinetics Publishers, Inc., 61-133, 1992.
- 11) 荻田亮,稲垣安二 「バスケットボール競技における攻撃形態の推移について」 大阪市立大学保健体育学研究紀要,28:37-43,1992.
- 12) 荻田亮,渡辺一志,松永智,嶋田出雲 「バスケットボール競技における攻撃行動の地域特性」 大阪市立大学保健体育学研究紀要,31,15-21,1995.
- 13) 嶋田出雲 「バスケットボール競技の特性の分析による選手作り・チーム創りの主要な課題とその位置づけの究明,」 大阪市立大学保健体育学研究紀要,28, 19-29,1992.
- 14) 嶋田出雲 「バスケットボール勝利への戦略・戦術」 1,大修館書店,7-12,1992.
- 15) 八板昭仁,藤本祐次郎,田口洵洋,磯繁雄,稲垣安二 「バスケットボールにおける防御の方法—5人の防御者による防御の方法—」 日本体育大学紀要,18-2,59-67,1989.
- 16) 吉井四郎 「バスケットボールのコーチング」 2,大修館書店,52-89,1977.
- 17) 吉井四郎 「バスケットボール指導全書3」 3,大修館書店,3-82,1991.